



『もっと！！本野通信』

No.87

諫早市立本野小学校長 永 井 洋

小音会（体験学習⑥）

23日に、3～5年生が、小音会に参加しました。今年の本野小は、ミッキーマウスマーチの合奏と本野節を披露しました。一緒に参加したのは、御館山・北諫早・上諫早小学校です。どの学校も仲間と息を合わせて歌ったり、演奏したりと素晴らしい会になりました。

小音会は、昨年度、中学校3年生が文化会館での発表、小学校は、各中学校区や近隣の小学校と協力して開催する方法に変更されました。どのような形であれ、音楽を通して他校と交流できたことは、互いに鑑賞しあい、共有・共感できるという点で、とても有意義であったと思います。「これまで通り」を少しだけ工夫することで、4校どこの学校も、「体験から学ぶ」ことができたようです。



不易と流行②（かたい話ですが…）

わたしは、教職に就いて31年目です。前号でいうと1998年の学習指導要領の改訂から流れを知っています。これは、国が有識者と検討を重ね、県や市を經由し学校現場にのりてくるのですが、その度に、「面白そうだなやってみよう」とか「本当に大丈夫なのかな」など様々な気持ちになりました。そのような中、その時の同僚の先生方と議論を重ね、何が目の前の子どもたちに一番有効なのかを考えてきました。（これが流行の部分です）

しかし、一貫して変えなかったこともあります。それは、若い頃に先輩方から教えていただいたこと、研修で学んだことです。

- ① 自分が担当する授業の「ねらい」を明確に子どもたちに示すこと。
- ② 子ども目線で「教材教具」を準備しておくこと。
- ③ 子どもが見やすい黒板を意識し、その時間の板書計画を考えておくこと。
- ④ 教科書や市販のテストのみに頼らず、自作の問題や資料を準備しておくこと。
- ⑤ 学習規律、教室でのルールを徹底すること。・・・

など、他にもありましたが、これらのことを「振り子」の中心において、その都度教育の流行を考えるようにしていました。（これが不易の部分です）

今感じていることは、これらのことがしっかりできていると、「ある一定以上の授業が展開できる」ということです。何をしても、「基本の型」というのは重要です。この土台に、新しい考えを加味していくことで、さらに深みが増していくのだと思っています。このような経験から、わたしは、「守・破・離」という先人の教えを大切にしてきました。

先日、小音会のリハーサルがありました。演奏後、鑑賞した1・2・6年生に感想を求めました。次々に手が上がり、自分が感じたことを伝えていました。これは、日頃から、子どもたちを指導している各担任の「不易」の成果なのです。すぐにできるようになることではないものです。「教えを守る、殻を破る、師から離れ次のステップへ進む」大切にしていきたいですね。 次号に続く

※訂正です。前号1898年（昭和63年）は、1988年（昭和63年）の誤りです。確認不足です。申し訳ありませんでした。